

みんなで「なんでもバスケット」をしてみよう！

ゲームのポイント

このゲームは、「フルーツバスケット」のアレンジです。事前に「自己理解・他者理解」等に関する学習をし、誰もが気軽におたすけカードを使用できる環境を作っておくことが望ましいでしょう。

対象 小学校「低学年」～「中学年」向き

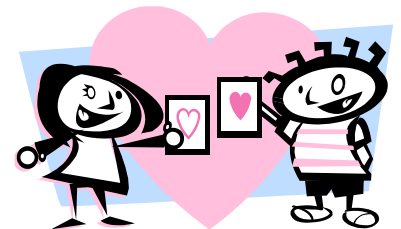
目的やねらい

・学級全体

ゲームを通してルールを守る大切さを学ぶ。
他児童との共通点を知り、仲良くなる機会をつくる。

・個別

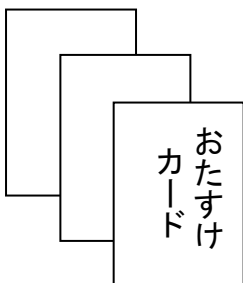
友だちの言っている言葉を正しく聞き取る（話している人に注目する）
他児童へ興味をもち共通している物、ことを探す（他者に興味をもつ）
自分の考えをことばにし、他者に伝えることで自信をつける（人前で話す）



ゲームの内容

1. リーダーを一人決め、リーダー以外の児童はリーダーを取り囲むように内側を向き円状に座る。（椅子等の数はやる人の人数よりも一つ少なくしておく。）
2. リーダーが真ん中に立ち、数名が共通することや物を叫ぶと、その共通することや物がある人は席を替わる。リーダーはこの席を替わる機会に空いた席に座る。また「なんでもバスケット」と言った場合は全員が席を替わらなければならない。
3. 座席を替わったときに座れなかった児童が、新たなリーダーとなる。

環境調整、教材の準備、周囲の子どもへの指導等



おたすけカード

(例) 色がすきな人

メガネをかけている人

がすきな人

スカートをはいている人 など

おたすけカードの中に「なんでもバスケット」カードも入れておくとよい

指導者の方へ

ゲームを楽しむために留意すること

環境調整、全体への指導等

- ・安全性を高めるため、できるだけ広い場所で行うことが望ましい。
- ・席を替わるときに児童同士がぶつからないよう席を替わるときは走らないようにする。
- ・リーダーの児童が発言するときに、必ず静かになってから発言するよう約束しておく。(静かにする合図を決めているとよい)
- ・席を替わるタイミングがつかめるまでは、リーダーが発言後指導者の合図で席を一斉に替わるようにするとよい。

個別の指導・支援の留意点 (個別の観点)

- ・共通点が、なかなか見つけられないことも考えられるため、あらかじめお助けカード(簡単な共通点の書いているカード)を準備しておき、鬼になって答えられないときはカードを引けるよう全員に伝える。
- ・席の替わるタイミングが分からず何度もリーダーになってしまう場合は、リーダーが発言した後教師の合図で、(笛等を使うと分かりやすい)席を一斉に替わるようにするとよい。

< 対象生徒の困難さ >

説明しても、周りと同じようにルールを理解ができない。

注意が続かず、ぼーっと、してしまうことが多々ある。

なんのこと...?

自分の考えや想いを表現することが苦手。

< 必要な指導や支援 >

口頭だけの説明ではなく、ルールを書いて提示するなど視覚的な支援を行い説明してみます。説明は簡潔に行うのがポイント。

誰かが話をするときは、合図等をし、話す人へ注目するよう促してから話を始めさせる。

日ごろからみんなの前で話す機会(日直やグループ発表等)を増やすことで自信をつける。(発言の仕方を書いて、提示しておくともよい)

